

## 平成 17 年度事業報告

### 1 会員状況

#### 1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 17 年度末	平成 16 年度末	増 減
1 級	12 社	13 社	- 1 社
2 級	6 社	7 社	- 1 社
3 級	18 社	20 社	- 2 社
4 級	36 社	30 社	+ 6 社
5 級	82 社	84 社	- 2 社
計	154 社	154 社	0 社

#### 1.2 個人会員

種 別	平成 17 年度末	平成 16 年度末	増 減
普通会員	1555 名	1608 名	- 53 名
学生会員	89 名	91 名	- 2 名
計	1644 名	1699 名	- 55 名

#### 1.3 名誉会員 ( 14 名 )

阿河 利男 阿部 芳郎 大城 芳樹 荻野 圭三 北原 文雄 櫻井 洸 佐々木恒孝  
高木 徹 常盤 文克 橋本哲太郎 早野 茂夫 松本 太郎 森 昭 渡辺昭一郎

#### 1.4 会員数の推移 ( 個人・法人 )

## 2 会務

### 2.1 総会

第51回通常総会を、平成17年3月31日、油脂工業会館で開催した。委任状出席を含めて77名の代議員の出席を得て議案を審議した。16年度事業報告および収支報告、17年度事業計画および平成17年度役員を選任等が審議され、いずれも原案通り承認・可決された。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が表彰された。

日本油化学会功績賞が元化学技術研究所 加藤 秋男氏に贈呈された。

平成16年度日本油化学会賞および進歩賞が次の各氏に贈呈された。

- ・学会賞 北里大学理学部 岩橋 槇夫氏
- ・学会賞 (株)資生堂素材・薬剤開発センター 坂本一民氏
- ・進歩賞 広島大学先端物質科学研究科 秋 庸裕氏

つづいて、講演(演題:古くて、新しい資源“油脂”大城芳樹 名誉会員)が行われた。総会に関するすべての行事が終了した後、懇親会がルビーホールで開催され、70余名が出席した。

### 2.2 理事会

定例理事会は5回開催し、平成16年度一般会計・特別会計決算案および平成17年度同予算案、平成17年度会長、副会長および常務理事の選任、運営委員、各業務委員長、各専門部会長、各支部長等の選任、日本油化学会名誉会員および日本油化学会功績賞ならびに日本油化学会賞等の選考、平成18年度年会開催地の決定および実行委員長の選任等、重要案件について審議し、決定した。

出席理事 延79名、委任状提出理事 延14名、出席監事 延9名

### 2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会6回、運営会議2回、名誉会員・元会長との運営懇談会1回、支部長連絡会2回をそれぞれ開催した。業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務、定款細則改訂委員会	6回	役員等候補者推薦委員会	2回
財務委員会	1回	学会賞選考委員会	2回
企画・部会統括委員会	4回	功績賞推薦委員会	1回
企画・部会統括委員会全体会議	2回	規格試験法委員会(含小委員会)	9回
企画・部会統括委員会WG	2回	若手の会委員会	2回
編集委員会	7回	ILSI 共催シンポ実行委員会	3回
JM2007 実行委員会	1回		
教本編集委員会(油脂)	1回		

総務委員会は、油脂工業会館の研究奨励金制度に関する選考基準の作成、個人情報保護法関連の規定、学術専門委員制度、会員名簿の仕様等について検討した。定款・細則改訂委員会は、諸規程の改定および学術専門委員制度に関する内規の制定を行った。ホームページ委員会は、本会の広報と会員への情報提供としてのホームページを目指して検討している。企画・部会統括委員会は、専門部会の新体制による活動の推進、本部事業の推進およびオレオサイエンスフォーラムを企画・実施した。規格試験法委員会は、トランス酸の新分析法、基準油脂分析試験法の英文化を検討している。また、本年も基準油脂分析試験法セミナーを行ったが毎年開催が定着したように思われる。マスターズクラブは関西地区が発足し、3地区それぞれが活発に活動した。

### 3 事業報告

#### 3.1 本部事業報告

- (1) 本部主催のセミナーは、企画・部会統括委員会を中心に企画・実行され、下記の5件を行った。参加者数は延 384 名であった。オレオサイエンスフォーラムは中堅社員対象の新規事業である。フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、基準油脂分析試験法セミナー-界面活性剤評価・試験法セミナー、オレオサイエンスフォーラム
- (2) 日本油化学会の編纂による「油脂・脂質の基礎と応用」および「界面と界面活性剤」を4月1日刊行し、単行本としての販売とセミナーの教本として使用した。

#### 3.2 支部活動報告

##### (1) 支部委員会等の開催

- ・関東支部 常任幹事会 3, 幹事会 1, 事業企画委員会 3
- ・東海支部 常任幹事会 3, 支部合同役員会 1, 支部将来計画委員会 1
- ・関西支部 常任幹事会 6, 幹事会 3

##### (2) 支部による講演会、セミナー等の行事開催

支部による講演会、セミナー、交流会等の行事は、延 14 回開催し、参加者数は延 769 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 58 名であった。

- |       |      |     |      |       |
|-------|------|-----|------|-------|
| ・関東支部 | 開催回数 | 5 回 | 参加者数 | 271 名 |
| ・東海支部 | 開催回数 | 3 回 | 参加者数 | 187 名 |
| ・関西支部 | 開催回数 | 6 回 | 参加者数 | 311 名 |

#### 3.3 専門部会、若手の会、マスターズクラブ活動報告

講演会、セミナー、談話会等の行事は、延 22 回開催し、参加者数は延 1019 名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延 60 名であった。

- |           |      |      |      |       |
|-----------|------|------|------|-------|
| ・専門部会     | 開催回数 | 14 回 | 参加者数 | 819 名 |
| ・若手の会     | 開催回数 | 2 回  | 参加者数 | 107 名 |
| ・マスターズクラブ | 開催回数 | 6 回  | 参加者数 | 93 名  |

#### 3.4 日本油化学会誌発行状況

- (1) 「Journal of Oleo Science」誌 第 54 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 774 ページ  
オリジナル論文中心の英文学術雑誌として発行した。2005 年の英文化率は 84 %であった。

掲載内容	報文・ノート・速報	英文	69 件	484 ページ
	報文・ノート・速報	邦文	15 件	99 ページ
	総説	英文	2 件	16 ページ

- (2) 「オレオサイエンス」誌 第 5 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 1034 ページ  
学術的啓発と情報を中心とした情報誌として発行した。

掲載内容	総合論文・総説・入門講座	28 件	250 ページ
	研究文献抄録	311 件	68 ページ
	国際油脂情報	255 件	77 ページ
	会務・会告		328 ページ
	広告	104 件	74 ページ

### 3.5 第44回日本油化学会年会

関東支部の協力のもとに、小山内州一実行委員長を中心に実行委員会を組織して、準備、開催した。本年会は、会期をはじめて3日間にしたこと、イングリッシュセッションは特に設けず内容に応じたセッションで発表することにしたこと、JOCs-KOCs ジョイントシンポジウムを併催したことなどが特色である。特別講演2件、受賞講演2件のほか、一般講演を行った。専門部会主催のイベントをランチョンシンポジウムとして2日間の開催とした。3日間の会期を無事盛況裡に終えることができた。なお、第4回ヤングフェロー賞は、江端洋樹、水尾晃治、松岡亮輔の3氏を選考し、エディター賞、オレオサイエンス賞等の受賞者とともに表彰した。

期 日 : 平成17年9月14日(水) - 16日(金)

会 場 : 慶應義塾大学矢上キャンパス

内 容 :

参加者総数	506名
講演件数	193件
・特別講演	2件
・受賞講演	3件
・一般講演(口頭発表)	121件
(ポスター発表)	41件
・専門部会ランチョンシンポジウム	10件
・若手の会講演	2件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演	7件
・JOCs-KOCs ジョイントシンポジウム	7件

懇親会日時: 9月15日(木) 18時半 -

会 場: 横浜崎陽軒

参加者: 160名(招待者を含む)

第14回 JOCs オイルカップスポーツ大会: 9月16日(金)

- ・エクスカージョン(横浜中華街・元町散策とクルージング) 参加者 10名
- ・テニス: 品川プリンスホテル屋内テニスコート 参加者 9名
- ・ボウリング: 品川プリンスホテルボウリング場 参加者 32名

### 3.6 JOCs-KOCs ジョイントシンポジウム

2005年9月15日、年会の会期中に、慶應義塾大学矢上キャンパスで開催され、盧 長淑 KOCs 元会長の特別講演につづき、KOCs から3件、JOCs から3件が発表された。また、懇親会での記念品交換や JOCs 代表者との会食を行い相互に親睦をはかった。今後、このようなシンポジウムを日韓交互に開催することになり、来年は韓国で開催することにした。

### 3.7 JOCs-AOCs ジョイントミーティング J M2007

第6回 J M2007 は、2007年5月にカナダケベック市で開催することになり、JOCs、AOCs および ISF の三者合同による開催となった。日本側の実行委員会は高橋是太郎実行委員長(北海道大学)のもとに組織され、シンポジウムの準備が進められている。また、日本の油化学関連工業の PR を目的に「日本パビリオン」を開設することも検討している。